



オリーブ通信

<http://www.ne.jp/asahi/olive/kusatsu>



FAREWELL.

オリーブには、いつも出会いと別れがあります。仲良くなった人たちとも別れの日がやってきます。7月21日の教室でも、ふたりの方の別れの挨拶を聞くことになってしまいました。素晴らしい日本語で心のこもった挨拶でした。寂しいですが、新しい場所でのご活躍とご健康をお祈りします。オリーブに来てくれてありがとう！またきっと会いましょう！



2年ほど前に家族とともに栗東市に引っ越してきました。その後、偶然オリーブ日本語教室を見つけました。オリーブに通うようになってから友達もたくさんできて、生活も楽しくなりました。特に田中先生からは、正確な日本語、日本文化など、いろいろ教えていただき、誠にありがとうございました。お陰様で、祇園祭を見たり、BNN日本語スピーチ大会に出たり、今まで経験したことのないような活動に参加させていただきとても感謝しております。

8月から主人の転勤でハンガリーに行きます。ハンガリーでも、日本語を忘れずに、今度はハンガリー語も勉強しようと思っています。オリーブの皆さん、今までどうもありがとうございました。皆さんも頑張ってくださいね。
張潔さん



オリーブは勉強するだけの場所じゃないです。初めて日本に来た外国人のための「もう一つの家」です。私が最初日本に来た時、友達がなく、日本のこともよくわからず苦しかったです。オリーブに来てから友達もいっぱいできたし、日本の歴史のこと、現代の流行など先生からいろいろ教えていただきました。そのおかげで日本の生活が楽しめるようになりました。

この度、7月28日に家族でアメリカに行くことになり、オリーブとのお別れがとても寂しいです。アメリカでも優しい人たちと出会えたらうれしいですね。本当にオリーブの皆様、ありがとうございました。また、何年か後、必ず戻ってきますので、その時にはよろしく願いいたします。
周穎さん

中川先生のへんてこ日本語

96

キヨキヨしい

サッカーの試合後の会見で、ある選手が心境を「キヨキヨしい」と語った。まさか「清々しい？」と耳を疑ったが、そう思ったのは筆者だけではなかったようだ。「冗談？」「流行語？」という声も聞かれた。しかしその後の誰かからの指摘で、その選手は自分の無知さを認め、恥ずかしさをにじませた。その様子こそ「スガスガしい」という声もあった。

とかく漢字の読み方は難しい。殊に訓読みは、想像もできないような読み方をすることが多い。耳で聞いたことはあっても、漢字で書かれると分からない。日本語も音声言語に変化したのかと寂しく思う。

この「キヨキヨしい」に関連し、読みにくい漢字のテレビ特番までできたほどだから、その選手の偉大さを改めて知らされる。

ある留学生が研究室へやってきて、日本人の友達の結婚式に呼ばれたのだが、「しゅくぎ」はいくら持っていけばいいか聞いてきた。「ああ、しゅうぎ(祝儀)ね」と文脈からすぐに気づいたが、普通に読めば「しゅくぎ」だよねと、留学生に非を咎める気にはならなかった。

中国の日本語の先生が、「私の話はおもしろいでしょう。私は色白なんです。」と、自慢げに冗談を飛ばしていたが、これなども、漢字(面白い)が頭に浮かばなければ、高尚な冗談であることには気づかない。

「二三日の酷暑に身も心もうんざりし、早く清々しい季節になってほしいと思う。このモウモウ(タケタケ 猛々)しい暑さはいままで続くのだろうか

京都外国語大学 日本語学科教授 中川良雄



みなさんの中にはよく海外旅行をするという人もいます。思いがけない文化や習慣を知ったり、美しい景色に魅了されたり、日本の当たり前が通用しなくてあたふたしたりも含めて、目を見開かされること、日常を離れて心身を解放できることが海外旅行の醍醐味ではないでしょうか。この春南米ペルーを旅行した吉田さんに旅の思い出を寄稿してもらいました。

長年の夢だったペルー旅行

吉田瑛美



今年のはじめに南米のペルーに行きました。そのときのお話を少し書かせていただきます。滞在期間は約2週間、ちょうど雨季の終わりにあたる2月に行きました。首都のリマに1週間、マチュピチュやナスカといった遺跡観光に1週間のスケジュールです。2週間というと、ゆったりとした旅行のようにきこえますが、実際、やりたいことがたくさんあったため、睡眠は移動時間にする、といったくらいハードなスケジュールでした。

帰国してからははくたくたで、丸2日くらい寝続けましたが、それでもやっぱりよくばって色々なところに行ってよかったです。

この旅行で一番気に入った場所はマチュピチュ村です。マチュピチュの麓にある村で、遺跡行きのバスもこの村から出ています。アマゾン地帯に隣接していることと、雨季に行ったということもあり、花が咲き乱れ、緑が濃く生命の力に満ちあふれていました。幾筋もの滝が山から轟音をたてて流れ落ちており、ただただ感動するばかりでした。マチュピチュ村行きの電車の線路のそばにも大きくうねった川が流れており、路が削れてしまわないのがとても不思議でした。

逆にすごく不安な気持ちになったのはナスカ地方です。リマから車で片道6時間あるのですが、その間見える景色は砂ばかり。ペルーの海岸地帯は砂漠が広がっているというのは知識として知っていたのですが、実際どこを見渡しても植物一つなく、ただただ砂だけが広がっている、という風景には最後まで慣れず、とても心細い気持ちになりました。

もちろん砂漠の中にはいくつかのオアシスがあり、ペルーの特産品である葡萄の蒸留酒やワインの工房を訪れ楽しみました。ペルーのワインはジュースのように甘口なのを、ずっと砂糖でもいれているのかと思っていましたが、一滴も雨が降らないため味が濃く、甘くなるのだということがわかりました。

この後半の観光地巡りでは、ペルーの広大な自然とその多様さを感じ、ただただ圧倒されるばかりでした。

さて、リマにいた1週間ですが、こちらは毎日色々な市場をのぞいて過ごしました。地域によって鮮度や価格も全く違い、みていて面白かったです。特に果物の種類が豊富で安く、食い意地の張った私は知らない果物のみては買いあさりました。その中でのお気に入りには食用ほおずきとペピーノと呼ばれるナス科のフルーツです。ほおずきは酸味があり、ペピーノは優しい甘さのあっさりした味をしています。どちらも日本にはない味でまた食べたいです。

最後におすすめの市場を紹介します。名前は「中央市場」。大きな大きな市場で、ここで揃えられないものはない、というくらい日用品関係がなんでも揃っています。全部見ようと思うと一日あっても足りないのではないのでしょうか。のぞきながら歩くだけでも楽しいです。

みなさんも、ペルーに行かれる機会があればぜひ行ってみてください。



写真上 マチュピチュ村行き電車
写真下 左からクスコの織物工房、
バジェスタ島、オアシス



僕は、物心つく頃から「武道」に興味がありました。それはたぶん、父親が時代劇が好きで、よく「水戸黄門」などのテレビドラマを見ていたからだと思います。でも、残念ながら、学生時代には柔道、剣道、空手などの部活動は怪我をするからという理由で、やらせてもらえませんでした。そんな僕も社会人となり、親離れが出来た頃から、また、武道熱が復活し、30歳を過ぎた頃から空手を始め、格闘技熱へと変わっていった僕の好奇心は、やがてボクシングへとヒートアップしていきました。

ところが、39歳の時に、あろう事か遊びのつもりでやっていたテニスで、アキレス腱を断絶してしまい、過激な運動を制限せざるを得なくなりました。もともと、身体を動かすことでストレスの解消をしていた僕は、この状況にいても経ってもいられず、怪我が完治してから、ジョギングや自転車など、身体への負担が少しでも少ない運動へ切り替えました。それでも、今度は膝に水が溜まるなど故障が絶えませんでした。そこで、やむなく50歳くらいからは、ウォーキングと筋トレ中心の軽いメニューへさらにペースダウンしていくようになりました。でも、さすがにウォーキングでは、ストレス解消にならず、1日1万歩という目標も達成感に欠け、このまま唯々老いていく自分に落胆していました。

一方、僕の老いとは反対に娘の成長は著しく、小学校3年生のある日、草津で活動しているミュージカル劇団の見学を機に、突然、人前で自分を表現することに目覚めました。ミュージカルを始めてからというもの、それまでは参観に行っても手も上げなかった娘が、積極的に発言するようになり、さらには学級委員に立候補するまでになりました。ボイストレーニングのお陰か、カラオケでも今では、家族3人の中で一番の歌ウマです。僕は、この娘の挑戦と成長に衝撃を受けました。

50歳を過ぎても何かをしたい、また自分を成長させたいという思いがふつふつと湧いてきました。そこで思いついたのが、かつて幼い頃、父親の膝の上で見ていた時代劇でした。あの見る者を魅了する殺陣のかっこよさは今でも時代劇を見る度に心が躍ります。「そうだ、殺陣を習おう！」単純ですが、50の手習いを始めた動機です。

殺陣を習い始めてから、まだ1年も経っていませんが、それでも今まで見る側で感じていたことと、今度は演じる側で感じることはずいぶん異なります。例えば、チャンバラのシーンは、見る者にとって一番心躍る場面ですが、実際に演じる側にとっては、立ち回りと呼ばれる格闘シーンより、歩き方、座り方、礼の仕方、などごく当たり前のような場面に、よりサムライとしての美しさを感じるようになりました。さらに、強さの表現としては、相手を切るシーンよりも、抜刀（刀を抜くこと）や納刀（刀を鞘に収めること）のシーンにこそ、その役者の強さを感じるようになりました。実際に演じていても、実は、この「歩き方」「座り方」「礼の仕方」「抜刀」「納刀」といった一連の所作は、上級者になればなるほど、美しく演じることができます。何より、正眼といわれる相手と刀を合わせる所作は、サムライの強さを一瞬にして知ることができるという奥深さに驚きを感じます。

写真は、6月に本部道場で実施された昇級試験に初めて挑戦して頂いた免状です。始めたばかりで、まだまだこれからですが、56歳にして再び目覚めた僕の武道熱はいったいどこまで続くのか、自分でも楽しみな毎日です。



どうなる？まちセン移転問題！

7月30日(月)、まちづくりセンターの(仮称)市民総合交流センターへの移転について、まちづくりセンター登録団体向けに説明会が開かれました。草津市の都市再生課とまちづくり協働課から、施設のオープン時期や会社の選定方法についての説明がありました。

<説明内容>

- ・2020年4月→2020年12月オープン予定に延期。鉄骨の納品が大幅に遅れるため。
- ・今年行われた選定委員会で優先交渉権者を「芙蓉総合リース(株)」に決定。現在、設計内容や価格などを協議中。
- ・複数の公共施設が同居する施設となるため、現在の登録団体がどのようなルールで部屋を使うか、他の施設を使っていた団体との兼ね合いは、といったことは今後決めていく。(レポート:後藤美子)





先月の活動(7月)

日本語教室 7/7, 21, 28 (3回)
 警報のため 7/7、7/28 は中止
 まちセン施設部会 7/12(木) (前田)
 K I F A 広報部会 7/19(木) (恩地)
 第2回BNN運営会議 7/28(土) (河村)

●日本語教室の(M)は定例ミーティング ●()内は参加者、または 参加予定者。敬称略



参加人数(7月)

	7/7	7/21	7/28
生徒	大雨警報発令	20人	強風警報発令
先生	中止	19人	中止



お知らせ

伝統の美と笑顔を写そう

浴衣ファッションショー

日時：8月11日(土)13:00～

内容：着物の着付けと写真撮影、ファッションショー

参加者募集中：ハンディをお持ちの方、外国人の方、お子様、浴衣をご持参いただける方

※ボランティアも募集中

主催：spring

電話 0120-582-303

メール sp_kimono@yahoo.co.jp

※くわしいことはオリーブの花岡さんへ



国際教育教材体験フェア in 滋賀 2018

日時：8月22日(水)13時～16時45分

会場：ピアザ淡海2階 JR 膳所駅より徒歩12分

プログラム内容

I 13:15～14:45

分科会1 多様性を学ぶワークショップ型学習を取り入れてみようー「場づくり」と「ファシリテーション」の理論と技法
 講師：森雄二郎(聖泉大学講師)

分科会2 現役大学生によるワークショップ「JIZOKU」ーSDGsを用いた社会課題教育

講師：アイセック京都大学委員会

II 15:00～16:30

分科会3 伝えるということを考えよう！ー「読めないお知らせ」
 講師：川嶋稔彦(湖南省立岩根小学校教頭)

分科会4 ネパールの防災について考えてみようー国際協力で大切なことって？

講師：倉公一(守山中学校教諭)

参加費：無料

定員：各分科会30名

申込み・問い合わせ：滋賀県国際協会

電話 077-526-0931

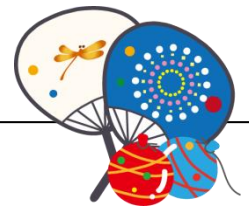
メール omori@s-i-a.or.jp

※主に教職員を対象にした研修ですが、日本語指導にも役立つことがあります。



今月の活動予定(8月)

日本語教室 8/4(M), 18, 25 (3回)
 立大生ボランティア受け入れ 8/4, 18



会員の動き(7月)

〈入会〉〈退会〉〈休会〉〈賛助会員〉なし

すっきりマーケットぶつぶつ交換会

～使わないものをほしいものにかえよう～

家具、食器、おもちゃ、本、赤ちゃん用品、衣料など

日時：8月18日(土)14:00～16:00 (受付13:30～)

場所：まちセン2階

参加費：300円(中学生以下は無料)手ぶらで参加も可

申込み：8月16日までに氏名、連絡先、出品物と数を電話かメールで藤田へ

junkan.ssk@gmail.com mataha

090-3966-8212

※大きな家具などは当日写真を持って来てください。新しい持ち主が決まらないものは持ち帰ってください。

主催：NPO法人くさつ未来プロジェクト & 循環型社会創生研究所えこら



日本語ボランティア養成講座

どのようなシラバスや教材で、いかに教えれば、持続的な漢字学習に結びつのかを講師・参加者とともに考えます。

第1回 8月26日(日)13:00～16:30 「生活の漢字」の理念と実践についてー「漢字を探そう」「教材を作ってみよう」

第2回 9月30日(日)10:00～12:00 「生活の漢字」の実践のふりかえりー「教室活動に取り入れてみよう」

講師：御子神慶子・棚田洋平(生活の漢字を考える会)

会場：共同福祉施設サンライフ甲西1階大会議室(湖南省中央1丁目1-1)

定員：30名

受講料：無料

申込み・問い合わせ：湖南省国際協会事務局

電話&fax 0748-71-4332



〈編集後記〉7月の猛暑には本当にまいりました。そして土曜日を狙ったような気象警報の発令があり、教室開催は結局1回だけになってしまいました。それにしても、世界中で進行している異常気象になにか地球の意志のようなものを感じてしまいます。「人間ども、いい加減こせえよ」と。それはまるで体の中に悪いものができたとき体が見せる防衛・攻撃反応のようです。謙虚に自然と対峙しなければ、アニミズムと魂鎮めについてよく考えるこのごろであります。(MO)